YU-PAL

2011年の活動

2011年の活動状況をお知らせします。

冬の森ウォーキング　～げんきの森で遊び隊～

　２月１９日この朝はマイナス２０度、流氷の接岸に晴天の放射冷却が拍車をかけ、日中でもマイナス９度の寒さの中、町を見下ろす五鹿山公園を会場に湧別町げんきの森活動委員会が主催する「げんきの森で遊び隊　冬の森ウォーキング」が開催されました。

　ゆうべつアウトドアクラブでは、毎年この森林体験学習をサポートしていて、今回もメンバー４人がスノーシューハイクやネイチャーゲームのリーダーを担当しました。
　スノーシューハイクには、町内から子供１４人、大人８人の２２人（内親子連れ　６組、高校生２人）が参加し、自己紹介を兼ねたゲームで体を温めた後、公園内の展望台まで約１.５ キロを１時間ほどかけ歩きました。
　途中エゾリスがかわいらしい姿を見せ、急斜面では汗だくになりながら展望台に這い上がると、白い氷に覆われたオホーツク海に、参加者から歓声があがりました。
　このあと、近くにあるトドマツの森で一本一本直径を測り、森全体がどのくらいの二酸化炭素を吸収しているか調べてみました。
　この小さな森が成長過程で吸収する二酸化炭素の量はおよそ６トンあることが分かり、人間が一生の呼吸で排出する量約６．４トンに匹敵するそうです。
　最後は、アースボールを使って地球の大きさと月の大きさを比較したり、参加者　みんなで力をあわせ高く飛ばすネイチャーゲームで締め括りました。

サーモンリバーinゆうべつ川　　～オジロワシやサケに出会いながら～

今年のゆうべつ川カヌーツーリングは、めまぐるしく変わる秋の天気に直前まで開催の判断を悩みましたが、昨年に続き2年連続の中止をなんとか避けることができました。

台風12号と15号の影響で川の様子は大きく変わりコースの下見がいつもより重くなりますが、前日の天気は気温12度、水温13度雨が時々強く吹き付ける最悪の状況、会長と事務局長が突撃漕行で危険箇所をチェックしゴール位置を上湧別橋下流に繰上げ約6キロに短縮して開催することにしました。

当日の朝は各地で最低気温を更新するほどの冷え込みで、湧別も気温5度、水温9度、晴れ間はあるものの時々強い雨混じりの風が吹き付ける不安定な状況、救いは日中気温が上がるとの予報を信じドライやフルウエットで完全武装した9人のツワモノたちがカナディアンカヌー5艇に分乗しゴールを目指しました。

スタートから2キロほどは普段でも落ち込みや早瀬が続く難所ですが通常よりかなり水量が多く、あちらこちら白波が立つ荒れたコースを右往左往し、難所ではカヌーを降りてルートを確認してから果敢にチャレンジしますが落ち込みであえなく撃沈、あまりの冷たさに野太い奇声がコダマし続いて3段ピンボールの早瀬では2艇仲良くシンクロ沈を披露、ゴールまで4回の撃沈を記録する方もいました。

ゲストは札幌からアウトドアクラブGnomeのW氏が現役女子高生とタンデムでツーショット、とっても楽しそうです。

結局、天候はさほど回復せず撃沈組は低体温症の一歩手前でゴールし稲妻のように車へ走って着替えをしていました。
例年、サケやカラフトマスの産卵が盛んな時期ですが今年はあまり姿を見ることがなく、少し寂しいサーモンリバーとなりましたがツーリング終了後は恒例の交流会、撃沈組の武勇伝に筋肉痛を忘れ盛り上がりました。

＜お手本＞

＜お手本の隣のラインで＞

＜このとき、降りかかる試練を知らなかった＞

＜沈はチャレンジャーのご褒美＞

＜ナイス　ファイト！＞

＜ゴールのラジコン飛行場＞
～穏やかな流れが、楽しいツーリングの締めくり～

＜女子高生もナイスファイト！＞

湧別川を知ろう　～湧別中学校の皆さんがハマナシ総合学習でフィールドワーク～

湧別中学校　1年生（39名）は、８月２４日にハマナシ総合学習で「湧別川を知ろう」と川原で野外学習を開催し、YU-PALメンバーがお手伝いをしました。

フィールドは湧別大橋から１０号地先までの５．５km。川原を歩きながら、植物や水棲生物を観察。
ネイチャーゲームなどを織り交ぜながらの楽しいフィールドワークとなりました。

参加した生徒の皆さんは、小学６年総合学習で水生動物の観察を学習し、中学生になって川の環境全体を広く知る機会となりました。

学習のポイントは次のとおり

- 咲いている花を探す（在来種と外来種→帰化植物･帰化動物）
- 自然の景色と人工物を見分ける（川と人の係わり、何故護岸や堤防は必要性を考える）
- オジロワシとトビの見分け方（身近な鳥で大まかな大きさを知る、スズメ・ハト・カラス・トビ）
- 水が汚れる原因を考える（人との関わりを工場排水やゴミの投棄を例に）
- 自然を使って遊ぶ（観察力を高めるネイチャーゲーム）

＜初めにごみ拾いを＞

つり＆カヌースクール／せせらぎスクール　～川の仲間たちを知ろう～

７月３１日湧別川の上湧別橋左岸川敷を会場にせせらぎスクールと釣＆カヌースクールを開催しました。

今年で13回を数えるせせらぎスクールには「上湧別の悪天候」というジンクスがあり、過去3回で台風による中止が1回、雨と増水で日程内容の大幅変更が2回という前歴がありスタッフ一同心配していましたが、今回はその汚名を返上する好天に恵まれ紋別や遠軽からも家族連れなど３１人が参加「ゆうべつ川で遊ぶ・学ぶ」をテーマに１日を川原で過ごしました。

午前のせせらぎスクール「学ぶ」では、川のどんなところに川虫や魚が棲んでいるかタモ網で捕まえその特徴や生態について講師から説明を受けました。

パックテストを使った水質検査は同じ川の水でも採取場所によって色が変化し違いがあり、その変化を数値にして水のきれい度を知ることがでました。

湧別川の周りにはたくさんの人が住み工場や畑、家畜なども多く、これらの影響を強く受けていますが、きれいな水質に棲むトビケラやカゲロウ、ヘビトンボなどの川虫が多く、それを餌にしているヤマベなどもたくさん採れました。また、パックテストの結果から水質は「きれい」と判断できました。

ただ、支流の中にはとても汚い水が流れ込んでいる場所もあり、この流域に暮らす私たちが日頃から注意深く観察を続けていく必要がありそうです。
午後の釣&カヌースクール「遊ぶ」では、採取した川虫を餌に魚釣りに挑戦、初めての子供たちが多い中良型のニジマスやヤマベが釣れ「食物の連鎖」を学ぶよい機会にもなり、ほとんどの参加者が初めて体験するカヌーはクラブのメンバーらが「沈」の期待で見守る中、右往左往しながらのパドルさばきながら自分たちで操る楽しさを体験し、水温が低めで実施を迷っていた川遊びも、日差しの強さに誘われ子供たちは次々と流れに浸かって「カッパの川流れ」を何度も繰り返していました。

せせらぎスクールの講師陣は、神奈川県箱根町から毎年このために参加して頂いている㈲環境保全研究所の川崎英憲さんをはじめ、札幌市のユニオンデーターシステム㈱小嶋章夫さん、栗林貴光さん、FRSｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ㈱徳島秀彦さん、山口裕司さん、北開水エコンサルタントの山本寛英さんなど環境調査や動植物の生態を専門とするエキスパート揃いで内容の濃い開催となりました。

講師のみなさんありがとうございました。

クリーン・ザ・リバーinゆうべつ川　～私たちのフィールドをきれいに～

6月19日 日曜日　晴れ

ゆうべつ川カヌー清掃は毎年YU－PALが水辺の活動を始めるこの時期に行っていて今年で13回目、前日夜半まで強い雨が続き川のコンディションが気になるところでしたが、水量は多いものの濁りも少なく青空に高い気温と絶好のカヌー日和ですが参加者は例年より少なくさびしいところでしたが、メンバー以外にも網走と紋別から2組が参加して陸上班も含めると8艇16人が湧別川の清掃をしました。

コースは、湧別川下流の中湧別橋をスタートし約5キロ先の河口まで砂利の広い川原の中瀬と淵がリズミカルに続き、川の流れが緩やかになると両岸にコンクリートの護岸が迫りオホーツク海に注ぎますが、その手前で右岸の樋門に上陸します。

川筋は堤防の間を左右に蛇行しているため川岸が削られヤナギやタモなどが根こそぎ倒木となって点在し、渇水時には少々手こずりますがこの日は水量も多く十分迂回できるので周りの景色を楽しむ余裕もあり、カモやカワセミ、ショウドウツバメの団地などを観察しながら途中の中洲や川岸の木にぶら下がったレジ袋や枝に挟まった空き缶などを拾い揚げていきます。

流れの中でパドルと呼ばれるオール（櫂）をうまく操りながらゴミのある場所にカヌーを着けるのは難しく、転覆（沈）してせっかく拾ったゴミを流してしまった参加者もいました。　途中スタッフが用意したコーヒーやクッキーで休憩を挟み2時間半ほどでペットボトルやタイヤなど約50キロのごみを集めました。

げんきの森で遊び隊　～サロマ湖いこいの森は～

サロマ湖いこいの森

❄森林体験学習「げんきの森で遊び隊」❄

６月１８日湧別町げんきの森活動委員会が町内志撫子（しぶし）地区のサロマ湖いこいの森で森林の働きや木の特徴を学びながらゲーム、工作などを楽しむ「げんきの森で遊び隊」を開催しました。

時々小雨が降るあいにくの空模様となりましたが町内から４４人の小学生と保護者らが参加し、森の中に設けられた約１．５kmの遊歩道を１時間ほどかけて歩きながら町や道西部森林室の職員から木の特徴や用途について説明を受け、林内で見られるミズナラやイタヤカエデなど１５種類の木の名札作りをしました。

あらかじめ薄くスライスされたシラカバやエンジュの板に、木の名前を印刷した紙とカーボン紙を載せ上から強くなぞると型紙どおりに名前が転写され、好きな色を塗って仕上げに透明ニスを吹き付けおよそ１時間で完成し、出来上がった名札に穴を開けてシュロ縄を通して木に結び付けますが、一人では手が回らないほど大きな木もあり参加者が協力し合い４４本の木に名札が取り付けられました。

昼食は大きな鉄板をみんなで囲みジンギスカンとおにぎりでお腹を満たし午後からはネイチャーゲームに挑戦しました。

見通しの利かない林の中にロープでコースを決め、草や木の陰にさりげなく置かれたプラスチックの人形や果物、ゴム性の昆虫など人工物をいくつ見つけられるか「カモフラージュ」と呼ばれる観察力を養うゲームは以外に難しく全部見つけられた人がいなかったので「もう一度」とリクエストがあるほど人気でした。

げんきの森活動委員会は、町、教育委員会、道オホーツク総合振興局西部森林室、森林組合と地元アウトドアクラブで組織され、平成１７年に北海道が指定した町内2ヵ所の「げんきの森」を利用し毎年夏と冬の２回森林体験学習を行っていて、積雪期にはカンジキを履き冬の森でスノーハイキングが予定されています。

Yu-pa l学校ビオトープ活動　～芭露（バロウ）の自然を学校に～

YU-PAL 学校ビオトープの保護活動

湧別町の芭露（ばろう）小学校に芭露川が蛇行した跡の三日月湖が池として校庭に残され、80年ほど前、児童の保護者や地域の人たちが手作業で水を引き込み、橋を架け池の手入れをしてきましたが、周囲の環境変化や時代の経過とともに人々の関心も薄れ最近では「ドブ池」となっていました。

学校と教育委員会はヘドロの除去や水の入れ替えと埋立ても検討しましたが費用面で実施には至らず、2005年（平成17年）手を加える前に専門家の指導を受けながらYU-PALが池の生き物について調べてみることになり、札幌市のユニオンデーターシステム㈱から二人の環境アドバイザーの派遣を受けエゾホトケドジョウやヤチウグイ、エゾトミヨなど絶滅が心配される希少な生き物たちが生息していることがわかりました。

以後学校や教育委員会、自治会、PTAなど地域の方々と一緒にYU-PALは毎年2回6月と10月に池の清掃と水質の浄化、生き物や水質の調査と子供たちのビオトープ学習を行っています。

▽ 芭露小学校の学校池を守る会 ▽　　§2011年6月11日　日曜日

今にも雨が降り出しそうな空模様の下PTAや自治会、教育委員会から35人と町内の小学生20人が参加し、久しぶりの大所帯でにぎやかな作業となりました。

胴付長靴を履いた大人たちは池の周囲に生えるヨシやスゲなど抽水植物が枯れ底に堆積して水質を悪化させるのを抑えるため根を残し葉の部分を刈り取り、廃棄物のカキ殻と牛乳冷却器を再利用して会員が手作りした浄化槽を冬場は凍結防止のため分解してあるので組み立て直し、刈り取った植物の葉と古いカキ殻は学校の畑に運び堆肥にしています。この間子供たちは、手網とバケツを持って生き物を調べるお手伝い、採取した魚や昆虫を種類毎に水槽に分けて観察、背中に卵を背負ったオスのコオイムシには「ゲ～気持ち悪い」と率直な感想もありましたが、地域に棲む生き物を知る良い機会となりました。

この日採取した中で、魚類はトミヨとエゾホトケドジョウが最も多く、昆虫類はゲンゴロウで、新しい種類は見つかりませんでしたが池の真ん中にあるスゲの群生にはマガモが卵

せんでしたが池の真ん中にある大きな群生にはヤブヒが卵を温めていました。

2011 ゆうべつアウトドアクラブ総会を開催しました

2011年度の湧別アウトドアクラブを5月6日にクラブハウスで開催しました。
会員13名ほどが出席し、2010年度の活動報告、決算、2011年度の活動計画、予算、役員の選任を行いました。

〇2010年度活動報告、2011年度活動計画
〇役員名簿（2011年度選任）